

愛媛県立今治工業高等学校いじめ防止基本方針

基本理念

- いじめは人権侵害・犯罪行為であり、「いじめを絶対に許さない」学校づくりに努める。
- 授業をはじめ学校生活のあらゆる場面において、生徒と教職員の人権感覚を高める。
- 生徒と生徒、生徒と教職員をはじめとする校内における温かな人間関係を築く。
- いじめを早期に発見し、適切な指導を行い、いじめを早期に解決する。
- いじめについて保護者・地域・関係機関との連携を深める。

PTA

地域

校内委員会

いじめ問題等対策委員会
いじめ対応チーム

関係機関

警察・医療・福祉

いじめの防止

- 生徒たちがいじめ問題を自分のこととして考え、自ら活動できる集団づくりに努める。
- 人権・同和教育、道徳教育、特別活動を通して規範意識や集団の在り方等についての学習を深める。
- 学校生活での悩みの解消を図るために、教育相談体制を充実し、スクールライフアドバイザー等を活用する。
- 教職員の言動でいじめを誘発・助長・黙認することのないよう注意を払う。
- 常に危機感を持ち、いじめ問題への取組を定期的に点検して、改善充実を図る。
- 教職員研修の充実、いじめ相談体制の整備、相談窓口の周知徹底を行う。
- 家庭・地域社会・関係機関との定期的な情報交換を行い、恒常的な連携を深める。

生徒が主体

早期発見

職員による観察や情報交換

- ・報告経路の明示と報告の徹底
- ・学年会、職員会議等での情報の共有
- ・次年度への申し送り事項の徹底

定期的なアンケート調査や個人面談等の実施

- ・アンケート実施(5・10月)
- ・面接週間
- ・保護者懇談会
- ・家庭訪問

教育相談体制の整備

- ・相談窓口の設置、周知
- ・スクールライフアドバイザーの活用
- ・学校以外の相談機関等の周知

収束の判断と継続観察・指導

いじめへの対処

⇒ いじめ対応チーム

被害生徒

- ・傾聴の姿勢
- ・教師は絶対的な味方
- ・自尊感情を高める
- ・交友関係の醸成
- ・自立の支援

加害生徒

- ・事実関係、背景、理由の確認
- ・受容的態度
- ・内省を促す
- ・問題解決の援助
- ・成長への信頼

関係集団

- ・傍観者から仲裁者への転換
- ・「いじめは決して許されない」という毅然とした姿勢を示す。
- ・いじめを訴えることは勇気ある行動であることを理解させる。

保護者

- ・事実と学校の方針を伝える。
- ・共感的に受け止める。
- ・連携して解決する。

保護者

- ・被害者の気持ちを伝える。
- ・事の重大性を認識させ、家庭での指導をお願いする

関係機関との連携

- ・教育委員会(解決が困難な場合)
- ・警察(暴行、脅迫を伴ういじめなど)
- ・福祉関係(児童相談所、役所など)
- ・医療(相談、治療)

いじめ問題等対策委員会

評価と指針の見直し

学校評価委員会

日常生活における未然防止の取組

